発行年月：2011年5月

第３号

発　行：日本医療ソーシャルワーク学会
(The Japanese Society of Medical Social Work)
編　集：日本医療ソーシャルワーク学会　広報担当
印　刷：社会福祉法人　福岡コロニー
事務局：〒810-0001 福岡市中央区天神1-3-46
済生会福岡総合病院　医療相談室
TEL：092-771-8151　FAX：092-716-0185
URL：http://www.jsmsw.jp

日本医療ソーシャルワーク学会ニュース

東日本大震災において、亡くなられた皆様に深い哀悼の意をささげます。私たち日本医療ソーシャルワーク学会は被災された皆様へ心よりお見舞い申し上げるとともに、被災地の一日も早い復興をお祈り申し上げます。

ハイライト

第２回日本医療ソーシャルワーク学会兵庫大会が今年の９月に開催されます。大会実行員の声が届きました。また平成22年度に行われた地域別ブロック研修の報告をお知らせします。

目　次

１．学会長あいさつ

２．研修参加報告
⑴関東ブロック
⑵九州・沖縄ブロック
⑶学会特別企画
ー宮崎県口蹄疫
支援プログラムー

３．第２回兵庫大会

４．研修案内
平成２３年度
中四国ブロック研修

５．学会誌発行

６．事務連絡

１．学会長あいさつ

日本医療ソーシャルワーク学会　会長　村上須賀子（兵庫大学）

2011年３月11日、日本を揺るがす大激震が走りました。アメーバーのように人も家も車も飲み込んでいく津波の映像に、この世のものとは思えない感覚で見入ったものです。

かって、大江健三郎が「ヒロシマノート」を著した後、広島での講演で「自分より遠くはなれた人の苦しみをいかに想像できるか、その想像力が、どれほど人間的であるかの尺度だ」と語ったことが耳に残っています。ソーシャルワーカーとして、目の前に居るけれど他者である利用者をいかに理解できるかを自らに問うとき、この「想像力」をより深めることが、常に胸のうちにありました。

しかし、「言うは易し」です。宮崎の口蹄疫被害に関して、宮崎県協会長から「牛の泣き声が耳の奥に残っていて、眠れない」と落胆している利用者たちがいると聞かされ、初めてその深刻さを実感した苦い思いがあります。少しでもお役にたてることはないものかと学会特別企画で「宮崎県支援プログラム」を計画した次第です。

津波にのまれたあの家の一軒、一軒での家族の日常生活はどうなったのだろう。家を失い、家財道具を失い、職場を失い、親を、子供を失い、地域社会を失い、さらに、原子力発電所から撒き散らされる放射能汚染の恐怖。涙でかすんで新聞記事を読み進むことが出来ないことがしばしばです。それは、原爆孤老、原爆孤児、原爆ぶらぶら病など、被爆者から聴かされ続けた長きにわたる苦悩と重なります。10年、20年、30年と月日を重ねるごとに問題は深化し、次々と異なった様相で顕在化することでしょう。

原爆被爆後の広島は「70年間草木も生えぬ」といわれながらも焼け野原から営みを始めた人々の底力、それに、国の特別立法による支援で街なみは復興しました。しかし、どの、被災でもいえることですが人間の営為に負った傷は、物の修復のようには癒えないものです。今後、「３・11」以降の長い年月、各地のソーシャルワーカーの地道な支援の真価が問われることでしょう。

既に所属する医療機関に透析患者さんなど被災患者さんを受け入れ、支援に取り組んでおられる医療ソーシャルワーカーの実践があります。

日本医療ソーシャルワーク学会として、当面考えられることは研修会や大会ごとに募金活動を継続することくらいですが、本年９月に兵庫大学で開催する学会大会で今後の支援の在り方を考える公開シンポジウムを企画いたしました。テーマは「地域の医療と福祉の連携を考える～震災の教訓から～」（仮題）とし、学会誌２号ではこのシンポジウムの報告を中心に特集を組む予定です。

私たちには戦争、原爆、そして阪神淡路大震災、新潟県中越沖地震など、各地で、その生活に傷を負った人々への支援の実践があります。今、長いスパンでのソーシャルワークの新たな展開を求められています。これまでの実践を踏まえ、この新たなチャレンジに、共に踏み出していきましょう。

２．研修参加報告

（１）　関東地区ブロック研修

平成22年9月11 日（土）10：00 ～ 16：00
ワークショップ：『困ったケースありますか？
ー ソリューション・フォーカスト・アプローチ（解決志向アプローチ）で目指す新しい解決 ー 』
講　師：大垣　京子（福岡医療福祉大学）
会　場：東京医科大学病院　本館６階会議室

報告者：江口 美奈子（国立病院機構災害医療センター）

私は東京都医療社会事業協会の新人研修・グループスーパービジョンでしかソリューションフォーカストアプローチを学んだことがなかったので、大垣先生の切り口を楽しみに参加させて頂きました。

まず、「問題の解決と、解決の構築の違い」を確認することができました。さらに目の前のクライエントが自身の力を思い出し、自信をもって前に進むことができることを確信できるような解決の過程についても、より理解が深まりました。

特に印象的なのは、クライエント役のリアルで個人的な日常生活場面での問題を扱うロールプレイでした。机上で学んだばかりの技法を、身近な実践の場に当てはめて、どの場面で使えるか・・・理論、面接技法に当てはめつつ、丁寧に振り返ることができたことは、私にとってとても新鮮な体験でした。

また大垣先生の大変魅力的で明るく支持的なお人柄に触れ、こちらのほうがコンプリメントされてしまいました。研修終了時はとても温かい気持ちになり「よし、明日も頑張ろう！」と希望を持つことができました。

大垣先生が一貫しておっしゃっていた「クライエントが希望をもつことができ、私たちに会えたことを少しでもよかったと思えるような支援」を私も積み重ねてゆけるよう、これからも日々研鑽をつんでゆきたいと思います。貴重な機会をありがとうございました。

（２）　九州・沖縄地区ブロック研修

平成22年12月18日（土）13：00 ～ 16：30
テーマ：『胃ろうと栄養管理について ー 生活支援の視点から ー 』
講　師：済生会福岡総合病院　　内科　　高橋　俊介　『胃ろうについて』
　　（社）福岡県栄養士会　　副会長　石井　妙子　『栄養管理入門』
会　場：済生会福岡総合病院　14 階会議室

報告者：楠本 陽子（国家公務員共済組合連合会　浜の町病院）

日本医療ソーシャルワーク学会　平成22年度九州・沖縄地区ブロック研修に参加いたしましたので報告いたします。

参加者は主に福岡県内のＭＳＷや施設職員、ケアマネージャーでしたが、他県からも参加された方が数名おられました。

まず始めに高橋先生から「胃瘻について」をテーマに、1.胃瘻をつくる前に、2.胃瘻をつくってみる、3.胃瘻をつくった後は、の３部構成にてご講義頂きました。講義の中では胃瘻の適応や目的、栄養補給の投与経路、胃瘻の施術方法、チューブの種類やその適応等を実際の画像も交えながらの説明がありました。胃瘻を使っている人にとって、胃瘻カテーテルとチューブは食器である、私たちが食事をするときはお皿をきれいな状態で使うように、カテーテルやチューブも清潔に保つ必要がある。そのような意識を患者自身やケアする介護者にも持ってもらいたい。というような全体的に分かりやすい言葉で胃瘻に関する基本的知識を教えていただきとても参考になりました。

次に石井先生より栄養管理についてのご講義がありました。栄養管理と言ってもとても内容が多岐に渡るため、今回は病院で働く栄養士がどのような役割や意識を持って働いているのかということを中心にお話しいただきました。石井先生は昨年の５月に済生会福岡総合病院を定年退職されるまで、長年にわたって病院に勤務されておられました。在職中に先生が入院中の患者への食事を選択する際に内容や形態を

どのように考えて提供していたのかということを中心に、その話に沿って栄養成分やエネルギー量、栄養摂取方法等について説明いただきました。栄養士の役割も医療情勢の変化と共に変化してきており、以前は栄養状態の維持と改善が主な役割であったが、現在では多様な栄養補給方法による総合的な栄養管理を求められている。またこれからは栄養士も地域と連携し情報の共有をはかっていくことが課題であるという言葉が印象的でした。

研修を通じて日常の業務で関わりのある胃瘻や栄養について改めて学び、理解を深めることができました。今回は講義形式での研修でしたが、最後にお二人とも忙しい時間の中、質疑応答の時間を割いていただき、私たちからの質問にひとつひとつ丁寧にご回答いただいたことでより理解が深まり、とても学びのある研修でした。

研修を実行してくださった関係者の方々本当にありがとうございました。

（３）　学会特別企画 ー 宮崎県口蹄疫支援プログラムー

平成23年３月26日（土）13：00 ～18：00
テーマ：『コーディネート機能の基本を学び、一歩踏み出そう！』
講　師：橋本　康男（広島県総務局国際課長）
　　村上　須賀子（兵庫大学生涯福祉学部社会福祉学科教授）
会　場：九州保健福祉大学総合医療専門学校（宮崎市瀬頭２-１-10）
共　催：宮崎県医療ソーシャルワーカー協会

報告者：安武 一（医療法人剛友会　諸隈病院）

今回の研修会には、全国から40名の参加があり、演習がメインだった。橋本先生の「あなた自身が自ら言い出し、周囲に働き掛けて何か生み出したことがどれだけあるか」という問いから始まった。

「自分だったら何だろう・・・。」今までの５年間を思い返してみて、ネットワークの立ちあげや、福祉マップの作成が思い浮かんだ。普段の業務に追われる毎日で、現在進行形で日々が過ぎていて、自分自身の今までのSW業務を振り返ることがなかったので良い機会となった。橋本先生の講演で印象に残ったことは、今後業務を進めて行く中で大事なのは「覚悟を決めたら明るくやる、要求することは簡単、不満や批判では何も変わらない。」という話だ。自信を持って何かに取り組むことは、簡単なことではないし、批判からは何も生まれないなと強く感じた。

前半の演習は、普段の連携での課題について先生の話を聞いて考えたことを３つ挙げ、それについて、「３静か」に沿って１．問題意識の掘り下げ２．現場の課題との接続３．今後のアクションプランについて深めて行くグループワーク演習で「３静か」とは以下のようなものである。

１．問題意識の掘り下げ（3静か）

① 静かに考える
・話を聞いて、気付いたこと、考えたことなど話すポイントを3つ考える。
② 静かに語る
・話す前に静かに心の中で語ってみる。
・全員が一人3分ずつ、順番に3点について語る。その間質問などはしない。語る側は集中して語る。
③ 静かに聞く
・他の人の話を聞いて大切だと考えたことなどを、もう3点メモする。
・自分の3点と他の人の3点の中から、自分が特に重要だと思う点を3点選ぶ。

「３静か」を踏まえてグループワークを展開するという研修方式であり、初めてのことであり緊張して戸惑いながらも、みな真剣に取り組んでいた。私も自分の番が近付くにつれて、緊張が増して頭が真っ白になりそうだった。いざ自分の番が回ってきたが、心の中で静かに語ったはずなのに、いざ話すとなると上手く３分で話せない。長すぎず、短かすぎず簡潔に話すことの難しさを実感した。

「３静か」は、「聞くだけ」「話すだけ」でなく、その中でさらに考えていくことは、相当の集中力を要する。一人で静かに考えて語ることで、どう相手に話そうか、どうしたら相手に伝わるかを考える準備ができることを体験した。

２．現場の課題との接続

グループワークでは、事前課題として「連携を進めるうえでの課題だと感じている点を３点挙げる」が与えられていた。みな、準備してきた課題について、その３点を元に自分が抱えている課題について５分で語る時間が与えられた。

３．今後のアクションプランへ

ここからが後半で、２．で語った内容で、今後のアクションプランを立てるための切り口を２つ絞り、実際にプランを立てるグループワークを行い、発表を行った。発表においても、ただ発表するだけでなく、発表を聞いて感じたことを他のグループから発表してもらうというスタイルで行い、グループワークは終了となった。

前半は、個人で語る形式で内容が濃かったので、やっと皆と話すことができて、ほっとしたのを覚えている。

「グループで議論することであっても、個人で考える時間を必ずつくること。」を念頭に置いて、実際にプランを立てて発表した。連携は普段欠かすことのできない課題であり、連携を深めるために「勉強会や会議など地域へ飛び出してみる、他部署への見学、体験、オフタイムの職員とのコミュニケーション、飲み会など」どのグループの意見を聞いても、「なるほど、こんな考えもある。できることからやってみよう。」と共感できる事も多かった。また、自分自身をケアすること、バーンアウトしないことにも気をつけなければならないと感じた。

今回の研修では、たくさんの学びがあった。最後のまとめでは、課題は個人レベルから組織、社会へと現場の声を反映していき、社会の問題としてとらえて行くことが必要。自分がいなければ生まれなかったと思える仕事をすることで楽しみ、喜びを感じること。いいこと、よかったことは伝えて行く。口で言うのは簡単、実行に移すことの難しさがあるなど様々な事を学んだ。また、先生からいただいた、一言フレーズ集は励みになり、「頑張ろう」と自分に言い聞かすのにもってこいのフレーズばかりであった。その中でも、心に残ったフレーズを紹介する。

「難しい仕事は難しい顔をしていてもできない」

難しい顔をしてれば誰も寄ってこない、肩の力を抜いて、必要な情報が気軽に幅広く自主的に集まる明るく楽しいオープンな雰囲気が大切

「成功は偶然の産物ではあるが、その偶然は努力の産物」

新たな何かができたときは、いろんな人に助けられ、いろんな幸運が積み重なった感じがするもの、それはそれまでの努力の積み重ねが生み出した環境

半日の短い研修ではあったが、凝縮されていてすごく疲れた。研修を終えてから一月が経過したが、まずは自分の中でも自分なりの準備をするように心がけてみることから始めてみた。

面接に臨む前に十分な準備が必要であることを実感している。３静かを試してみて、自分の中で考え語っていても、なかなか言葉が出てこないことがあるので、キーワードをメモして、それを見ながら面接を行っている。また、今まではその場しのぎで対応することもあったが、自分の中で静かに考え、語ることで、自分の中にゆとりができ、自分の世界に入り込みすぎず、周りが少し見えるようになったように感じている。

学会特別企画 ー 宮崎県口蹄疫支援プログラム ー　終了後の便り

研修翌日に宮崎県会員の吉田由美子さんに案内していただき、菜の花が広がる西都原めぐりを堪能しました。その吉田さんよりお便りと旅の思い出のプレゼントをいただき感激です。ご本人の了解をいただき、ご紹介いたします。

村上須賀子

この度は日本医療ソーシャルワーク学会特別企画として、宮崎県支援プログラム研修を宮崎にて開催していただきありがとうございました。

そして、ご多忙にも関わらず、直筆で参加者一人ひとりに宛てたレポート課題という村上先生のご配慮により、事前準備と心構えをしっかり持ち臨めたおかげで今回の研修を充実感いっぱいで終えることができたのではないかと思っております。

先生の「チェンジエージェントとしてのソーシャルワーカー」という言葉を耳にして、そして橋本先生による、社会的課題解決のための「社会システムづくりとコーディネート力」についての講義を受け、私たち現場のソーシャルワーカーは、目の前にある問題を個別のものと切り離すのではなく社会全体の中にある問題の一つとしてとらえてソーシャルアクションの一歩を踏み出していかなければなければならない役割を持っているのだと身に沁みて感じたところでした。そういう機会が本研修を通じて得られた事、本当に感謝しています。

最後になりましたが、翌日の西都原めぐり・懇親会では楽しい時間を過ごす事ができて嬉しく思います。

(略) 追伸　西都原で写した写真を一枚同封しました。また、旅の思い出に、ささやかですがその際の菜の花でしおりを作りました。

吉田 由美子（(医) 伸和会　共立病院）

研修会では東日本大震災と宮崎口蹄疫被害のための募金を行いました。合計34,846円の募金がみなさんから集められ、その全額を23年４月６日付で宮崎県共同募金会を通じて募金いたしましたのでご報告させて頂きます。

また、この度の研修会は宮崎県医療ソーシャルワーカー協会の宮崎会長を始め、会員の方々にご援助・ご協力いただき開催することが出来ました。深く御礼申し上げます。

３．第２回日本医療ソーシャルワーク学会　兵庫大会

平成23年９月10日（土）～11日（日）
テーマ『紡ぎ手としての医療ソーシャルワーカー
ー「孤立」からの連携支援の先にあるもの ー』
会　場：兵庫大学（兵庫県加古川市平岡町新在家2301）
〈一日目〉
記念講演：スン・レイ・ブー（兵庫大会 生涯福祉学部長）
「Advocacyはソーシャルワーク専門職の基礎です」～歴史的視点から～
基調講演：炭谷　茂（社会福祉法人恩賜財団済生会 理事長）
「孤立する人たちを社会の一員へ」～ソーシャルファームの目指すもの～
分 科 会：実践報告・実践研究発表　　※分科会の演題を募集しています
〈二日目〉ワークショップ・公開シンポジウム（兵庫大学共催）
参加費：日本医療ソーシャルワーク学会会員（正・準会員・賛助会員）５,000円
非学会員：７,000円　学生：３,000円

申し込み・お問い合わせ先
日本医療ソーシャルワーク学会兵庫大会事務局
社会福祉法人恩賜財団済生会兵庫県病院　医療福祉事業室
TEL　０７８（９８７）２２２２（代）　〈担当〉高畠

実行委員会のメンバーよりメッセージが届きましたので次ページに掲載します

医療福祉総合ガイドブック　2011年度版

編　　集：NPO法人 日本医療ソーシャルワーク研究会
編集代表：村上　須賀子／佐々木　哲二郎／奥村　晴彦
医療・福祉サービスの社会資源を、利用者の視点で一覧できるガイドブック。
素早く、確実に対応できるよう配慮した。保健・医療・福祉関係者必携の１冊

兵庫大会実行委員会からのメッセージ

兵庫大会実行委員長　和田 光徳（市立岸和田市民病院）

日本医療ソーシャルワーク学会第２回兵庫大会の実行委員会始動！

学会員のみなさん！こんにちは！兵庫大会実行委員長の和田光徳と申します。本年３月、いよいよ今秋の大会開催に向け、兵庫、大阪の会員を中心に、実行委員会が発足しました。私が言うのも手前みそになりますが、“めっちゃ（とても）、すごい奴ら”です。何がすごいって、大会にかける熱い気持です。できたてのたこ焼きを思わず口に入れてしまったときぐらい熱いです。わかりにくい？そういう方こそ、ぜひ！この兵庫の地に来てください。おいしい“粉もん”もご賞味いただきたいですが、この“熱さ”を大会の旨味にできるよう、一同奮い立っています。この熱き実行委員総勢21人を束ねるのが、わが奥村大会長であります！それでは大会長より一言ご挨拶いたします。大会長、どうぞ～！

大会長の奥村晴彦です。実行委員長が、コテコテの大阪バージョンで挨拶をするとは夢にも思わず、あらためて実行委員長をお願いしてよかったと思います。もちろん実行委員の選出にも間違いがなかったことが実証されました。（身内で誉めあってどやねん）←大阪のツッコミ

さて、今大会は現場で行っている実践を大切にしていこうという観点から、分科会で実践報告・実践研究を企画しました。「ケースは机上ではなく現場で動いている」その現場実践をまとめて、各地でがんばっているMSWへ実践を形にして見せていくことが、とても重要なことだと思います。恒例のワークショップは当然のことながら、今大会は地域に根差した公開講座も企画していますので、ぜひご参加をお待ちしています。

加古川は話題のB級グルメで、「かつめし」もあります。楽しみを見つけることも、大会参加の目的です。『ソーシャルワーカーはクライエントの生きる力を受けとめ、生活に気づき、笑顔をひきだす役割がある』～だからこそ、いつも笑顔がステキなMSWであるために・・・

大会長、熱いお言葉ありがとーございました！今大会が“ステキな笑顔”を、お互いに紡ぐことができる場となるよう、実行委員会は、気持を熱く結束します！

第１回実行委員会（３／13）は、大会開催地であり、学会長　村上先生のお膝元でもある兵庫大学で行われました。当日は、大会テーマ「紡ぎ手としての医療ソーシャルワーカー～『孤立』からの連携支援の先にあるもの～」に沿ったプログラム概要と、ワークショップの内容について検討を重ね、実行委員会の組織編成と担当を振り分けました。またお忙しいご予定の中、兵庫大学社会福祉学科長　田端和彦先生のご厚意により、会場となる大学構内を丁寧にご案内していただきました。各実行委員が、会場となる現地を確認させていただけたことで、具体的なイメージを掴むことができ、また開催への責任感を、いい意味で現実のものとすることができたように思います。今回の会場となる兵庫大学には、多大なご協力をいただいております。特に田端先生には、その後も会場及び懇親会のことで調整いただくことが多々あり、恐縮しております。失礼ながら、この場をお借りして厚く御礼申し上げます。今後ともよろしくお願いいたします。田端先生には当日のお弁当まで手配していただき（ご厚意⊇お弁当 ⇒ ♡ ）、村上先生の広島みやげと合わせて、実行委員一同堪能いたしました。おなかいっぱい！

そんなこんなで、４／17第２回実行委員会は、日本の社会福祉の原点といわれる四天王寺にある四天王寺病院（大阪市）の会議室をお借りして、各部会の進捗状況と検討事項について討議しました。食い道楽で終わらぬよう、会議室には聖徳太子像が鎮座おわします。冒頭、学会長のご挨拶から、JR天王寺駅前の四天王寺定食がおいしかったこと、大会長からもご当地銘菓“釣鐘饅頭（カステラ）”について提供があるなど、今回も血糖値を上げて、各委員のモチベーションをさげることなく、４時間半の熱闘委員会でした・・・。

何か、食べてばっかりみたいな実行委員会ですが、内容は間違いなく実効委員会！ですのでご安心ください。でも、少し不安になられた方のために、各部会から力強いメッセージをお届けします。

大会事務局（受付）

どの位の方々にご注文（参加申し込み）を頂けるのか、ドキドキの大会事務局＆受付担当です。だから私たちは、“ご注文をお受けするメニューです。事務局ではスムースな申し込み対応を、当日受付では速やか且つ爽やかに対応できるようメニューを取り揃えます！　（高畠・大田黒・中山）

財務・会計

会計は文字通り金庫番ですが、予算に合わせ且つおいしい料理となるよう、各パートに仕込みます！担当３人が尼崎市内の病院勤務という点で、たびたび集まり、話し合いをしながら取り組めるのが強みです。「チーム★尼崎」の強力なチームワークを、「チーム★兵庫県」へと成長を遂げて、商売繁盛・・・いえいえ、「大会」を盛り上げたいと思います。　（平田・林・神田）

広報・印刷

通称「紅生姜」こと広報担当です。ともに広報業務経験ありの２名で、互いに仕事を押し付け合う（？）抜群のチームワークで奮闘中。でも、我々の仕事は大会本番前日まで・・・。だから紅生姜。粉もんには欠かせないのに最後には埋もれてしまう、そんな私たちです！　（藤田・福井）

会　場

“粉もん”をおいしく焼き上げる鉄板の会場係です。「大会当日だけ、めいっぱい熱くなるでぇ～！」ではなくて、事前に準備したり考えたり、課題はたくさんあります。予熱から焼き上げまで、おいしく“熱い”大会に仕上げます！　（田澤・藪上）

案　内

傍目にゆるいスタートの案内係ですが、内には熱い闘志を燃やしております。何気にあって、なきゃ困るお冷やとおしぼりのように、皆さまが充実した時間を過ごせるよう抜かりない準備を心がけ、当日は皆さまの顔と心に笑顔を咲かせます。　（片山・伊達）

イベント・観光

味はもちろん見栄えも大事！イベント・観光は、タレとトッピングで、粉もんを引き立てます。加古川の名物・名所を取り入れて、「兵庫に加古川あり！」とグルメな関西人の舌をうならせるべく、現地にも足を運んでいます。ブログでも紹介しますのでお楽しみに！　（阪口・泉本）

分科会

分科会は、粉もんのメイン具材（エビ、たこなど）です！学会メインはもちろん皆さんでもあります。先に火を通しますので、演題も早くに受けつけます。分科会担当は、関西風コテコテではなく、標準語の担当者も取り揃えておりますので、安心して（？）奮って応募してくださいね～。特色ある分科会を作りましょう！　（田中・佐原）

ワークショップ

ワークショップはキャベツとつなぎです。皆さんにおいしく召し上がっていただけるよう、ミックスに苦心しています。多彩なワークショップをご用意しておりますので、是非ご参加ください！参加者が中心となって講師とともに焼き上げてください。
（吉松・本田）

公開シンポジウム

公開シンポジウムは、かかせないたまごと山芋です。粉もん全体の味を深めます。現場でご活躍されているシンポジストの報告から、日常のMSW支援業務以外の支援や役割を知って頂ければと思っています。今回、阪神淡路大震災の被災地である兵庫で大会が開催されることもあり、災害と地域・医療・連携を考えていきたいと企画しています。地域の関係機関や地域住民の方々にも参加して頂き、大会の意義をより深めたいと思います。　（江尻・遠藤）

最後になってしまいましたが、兵庫大会開催にあたり、地元兵庫県から済生会兵庫県病院様に、大会事務局としての労をお引き受けいただけることが決定いたしました。これは学会並びに学会事務局から、ご尽力いただいた賜物であり、関係諸氏の方々並びに済生会兵庫県病院の皆様に、厚く御礼申し上げます。

関西名物“粉もん”は、具材だけでは召し上がれません。実行委員だけでも、わが大会は成功しません。学会員皆様のパワーを兵庫の地にお向けください。そしてぜひ、ご参加くださいますよう、心よりお待ちしています！

４．研修案内
平成23年度　中四国ブロック研修

平成23年６月25日（土）10：00～14：30
テーマ『クライエントの主体性を支える 一解決構築による医療ソーシャルワーク一』
基本的なコミュニケーションの練習をしましょう。ロールプレイで楽しく
講　　師：大垣 京子（福岡医療福祉大学 教授・日本医療ソーシャルワーク学会副会長）
会　　場：広島会計学院電子専門学校（広島市中区千田町１-２-19）
参加申込：平成23年６月17日（金）
必着で受講申込書を（ホームページからダウンロード可）を下記までＦＡＸしてください。
参 加 費：日本医療ソーシャルワーク学会会員（正・準会員・賛助会員）3,000円
上記以外 5,000円

定員：30名
（先着順）

申し込み・お問い合わせ先
日本医療ソーシャルワーク学会中四国ブロック研修会事務局
安芸太田病院　地域医療支援室　＜担当＞　徳富
TEL　0826（22）1830　　FAX　0826（25）0010

５．学会誌発行

記念すべき、創刊号を発行することができました。学会誌を育てていきましょう。今後も、会員の皆様の投稿原稿を編集委員一同でお待ちしています。
編集委員長、黒岩　晴子　編集委員、竹内　一夫、前田美也子、村上須賀子

６．事務連絡

学会事務局より、年会費についてご連絡します。

【過年度年会費納入のお願い】
平成22年度以前の年会費の納入について先般ご案内しましたが、まだお済みでない方が多数いらっしゃいます。お急ぎお納めくださいますよう宜しくお願いします。

【今年度年会費について】
第２回日本医療ソーシャルワーク学会兵庫大会にて開催される第２回通常総会の後にご案内します。

納入の際は、通信欄に「平成○年会費」とご記入ください。
郵便振込口座記号番号：０１７６０－２－１４０６１７
加入者名：日本医療ソーシャルワーク学会

以上、ご協力をよろしくお願いいたします。

※なお、今回同封しております振込書は、年会費用ではありません。「第２回日本医療ソーシャルワーク学会兵庫大会」専用の口座です。お間違いのないようお願いします。

e-mail：jsmsw.secretariat@jsmsw.jp
FAX：０９２（７１６）０１８５
日本医療ソーシャルワーク学会　事務局
阿比留（済生会福岡総合病院）

≪編集後記≫
３．11はテレビの前から動けずにいたことを覚えています。そして何も出来ない自分に虚しさを感じながらも、しかし毎日を普通に過ごすことができる自分の感覚の無機質さを悲しく思いました。その中で、翌日の街角では募金活動がいたるところで行われている姿に久しぶりに日本の団結を見た気がして、どこか勇気付けられた感覚もまた覚えています。各地でイベントだけでなく研修会や大会が中止・延期を余儀なくされる中で、９月に行われる兵庫大会は阪神淡路大震災を経験した実行委員の方々が中心となって会を計画･運営して下さいます。不思議な縁を感じながら、特別な想いがきっとあるんだろうなぁと勝手に想像しながら便りを読ませて頂きました。おいしい粉もんを通して笑顔が全国に届くことを願いつつ。
〈広報：中村勇気（早良病院）〉